



令和8年度 学校目標
ふるさとに誇りを持ち 学び合い 支え合い 認め合い
ともに未来を切り拓く児童の育成

共感力

挑戦力

やりぬく力



毎朝の温かい見守りに感謝

毎朝、通学路の交差点や横断歩道に立ち、子どもたちの安全な登校を支えてくださっている「見守り隊」の皆さん。その献身的な活動は、単なる交通指導の枠を超えて、子どもたちの命や健康を守る大きな砦となっています。夏休み明けの登校日の朝、いつものように交差点で子どもたちを迎えていた見守り隊の方が、ある登校班にいつもいるはずの子どもの姿がないことに気づきました。すぐに班の子どもたち「〇〇さんはどうしたの？」と声をかけましたが、はつきりとした理由は分かりませんでした。他の見守り隊の方と確認して、「もしかしたら、登校の途中で体調を崩して、どこかでうずくまっているのではないだろうか。」胸をよぎった不安をそのままにせず、その方はすぐに行動を起こされました。交通指導を終えるとすぐに車に乗り、その子どもも通学路へと様子を見に向かわれたのです。

幸いにもその日は大事には至りませんでした。この素早い対応の裏には、「毎朝、子どもたち一人一人の顔を覚え、小さな変化にも気づく」という、日頃からの深い愛情と関わりを感じました。

毎朝立ってくれているだけでありがたいのに、ここまで自分の事のように心配し、動いてくださって本当に頭が下がります。地域のつながりが薄くなっていると言われる現代ですが、通学路で育まれている「見守りの絆」は、今も確実に子どもたちの安全な日常を支えてくれています。

自分の目で見て、社会の仕組みを学ぶ「3年生・4年生の社会科見学」

デジタル化が進み、教室にしながら多くの情報を得られる時代だからこそ、「本物に触れる体験」を大切だと考えます。9月に入り3・4年生が見学旅行に行きました。

3年生：石炭科学館では、かつて地域を支えた石炭の歴史を学びました。納豆工場では、おいしい納豆を作るための工場の工夫や働く人の努力を間近で見学しました。

4年生：エコアくまもとでは、最新の環境施設を目の当たりにし、自分たちの暮らしとゴミ問題のつながりについて学習しました。通潤橋資料館では布田保之助の偉業や白糸台地の人々の苦労について学習し、その後実際に通潤橋を見学しました。

集団行動を通して、公共のルールを守ることや、友達と協力し合うことの大切さを学ぶなど、心身ともに大きく成長する姿も見られました。

この社会科見学で得た学びを、壁新聞にまとめたり、発表会を行ったりしてさらに学びを深めていきます。

4年生



3年生

